
あとがき

2003年に刊行された本書も、今回で第4版となりました。まだ『基本編』という題がついていなかった初版と比べますと、ページ数だけでなく、当時は利用できなかったり、存在すらしなかったりした学術情報ツールが大幅に増加しています。

本書は執筆当初から、次の基本方針をもって執筆されてきました。

- ・主に新生を想定した説明内容とする。
- ・東北大学内の利用環境に則したツールの紹介を行う。
- ・電子版も作成するが、学生が愛着を感じるような冊子体を作る。

2007年版は構成の大きな改訂はありませんが、日々増加する各種ツールの追加・更新だけでなく、本文や図表に見直しを加えました。それは、上記基本方針をふまえ、現場の声を反映したものです。

本書を教科書とする全学教育科目「大学生のための情報検索術」も3年を経過しました。授業に携わることで、本書が授業の教科書であるために足りない点を認識し、改訂に反映することができました。また本書は、学内の各図書館で開催される各種利用講習会のテキストとしても使われています。実際に講習会を担当した職員からの指摘も改訂の助けとなりました。

2006年には姉妹編である『自然科学編』をベースとした『理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル』が市販され、学外から評価いただきました。また、間もなく『人文社会科学編』が刊行される予定であり、ようやく本シリーズが出そろうこととなります。学生のみなさんの傍らでいつも活躍する一冊となるよう、我々も日々研鑽を重ねていきたいと思っていますので、今後ご意見・ご要望などをお寄せください。

最後になりますが、こうして無事出版できたのも関係職員の多大なご理解とご支援のおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2007年3月吉日 図書館情報教育支援WG
『情報探索の基礎知識. 基本編』編集代表 藤澤 こそ江

■ 参考文献（著者の50音順）

- 1) 池田祥子. 『文科系学生のための文献調査ガイド』. 青弓社, 1995.
- 2) 海野敏, 影浦峯, 戸田慎一. 『学術情報と図書館』. (講座図書館の理論と実際, 9). 雄山閣, 1999.
- 3) 扇元敬司, 伊藤敏敏. 『学術情報の上手な仕上げ方』. 川島書店, 1994.
- 4) 大竹秀一. 『だれも教えなかったレポート・論文書き分け術』. エスシーシー, 2005.
- 5) 慶應義塾大学日吉メディアセンター編. 『情報リテラシー入門』. 慶應義塾大学出版会, 2002.
- 6) 斉藤孝, 佐野眞, 甲斐静子. 『文献を探すための本』. 日本エディタースクール出版部, 1989.
- 7) 情報科学技術協会. 『情報検索の基礎』. 第2版. 日外アソシエーツ, 1997.
- 8) 長澤雅男. 『情報と文献の探索』. 第2版. 丸善, 1987.
- 9) 仲本秀四郎. 『情報を考える』. (丸善ライブラリー, 073). 丸善, 1993.
- 10) 新潟大学附属図書館「情報検索とその活用」編集委員会編. 『情報図書館：大学で役立つ情報検索法』. 同委員会, 1998.

■ 編集担当（所属は2007年3月現在）

編集 : 藤澤こず江（多元物質科学研究所図書室）、
勝本加奈子（農学分館図書係）、永井伸（総務課情報企画係）
監修 : 佐藤初美（総務課情報企画係）

■ 2006年版以前の執筆者（50音順・東北大学転出者は現在の所属）

落合浩平、勝本加奈子、菊地良直、阪脇孝子（東京大学）、佐藤初美、菅原透、
杉山智章（静岡大学）、関戸麻衣（国立情報学研究所）、
宗川かほり（国立高等専門学校機構）、永井伸、中村直子、半澤智絵、
藤澤こず江、藤本菜穂子（宮城工業高等専門学校）、吉植庄栄、米澤誠

※ 本文中に掲載した画面例の著作権者からは、本書への掲載をご快諾いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。